

JAMトピックス

J
第
定
1
期
A
6
大
M
回
会

2015 年度活動方針など決める

JAMの2014-15 運動方針に基づく2015年度の活動方針を決定した第16回定期大会が8月28日と29日の両日、静岡県・熱海市で開かれた。出席者は代議員182人をはじめ446人。提案された①2015年度活動方針②予算③2014年春季生活闘争総括④労働協約と2014年末一時金闘争方針⑤政策実現活動の推進など合計9本の議案はそれぞれ満場一致で決定された。また、役員二人の退任に伴い、新たに二人が補充された。



<女性を含む3名の議長による進行>

この大会では、議長団にJAM新潟・コロナ労働組合の細川さつき代議員がJAM結成以来、2回目の女性として加わり議長の重責を果たした。また、眞中行雄会長が腰痛治療のため欠席。藤川慎一副会長が会長挨拶の内容を代読した。

来賓としてあいさつした神津里季生連合事務局長は、2014年春闘は10年におよぶ低水準妥結から引きはがしたと評価しながら、15春闘は雇用労働者の七割を占める中小企業に働く労働者、非正規雇用の労働者へ適正な配分がなされないと底上げにつながらないと一層の奮起を訴えた。また、労働者保護ルールの改悪を何としても阻止するため連合の設定する諸行動への参加を訴えた。

金属労協の西原浩一郎議長は、2014春闘をベア1%以上の共闘を組み一歩踏み出せたが、15春闘では二歩三歩と進めないといけないとして、要求根拠の確立と実効ある共闘へ議論を要請した。

議事では、合計7人の代議員が立ち活動方針など

について質し、執行部が答弁。提案された議案はいずれも満場一致で可決された。

春季生活闘争の総括では主な成果として物価上昇分と生活改善分の「ベア」要求を軸とする共闘効果があった。①企業業績だけでなく、物価上昇分を重視した要求の取り組みが行われた。②物価上昇分に重点を置き、要求検討段階から統一要求日に向けた共闘態勢づくりに、JAM全体で取り組むことができた。③ベアによる相場形成が行われた。その結果、企業状況だけに拠らない賃金改善の獲得が進んだ。単組数、金額ともJAM結成以来最高のベア獲得を得た。④例年とは異なる相場形成の流れがあり、特に5月段階では、回答引き出しから妥結まで時間をおく、粘り強い交渉が見受けられた。



<春闘総括を語る藤川副会長>

課題としては今回、事前の学習会や情報交換によって、共闘の意義について単組間の共通認識を強め、共闘の効果を高める取り組みがなされたが、要求提出の統一要求日への集中や早期化など、共闘の範囲と効果を広げていく余地がまだまだ残っており、強化する必要がある。ベア獲得額や回答の対前年増加額が、過年度物価上昇率を満たしておらず、生活防衛という観点から課題を残した。

大会は最後に3・11を風化させないための諸活動の推進、再雇用やパート・契約社員などの有期契約労働者の組合員化への取り組みなど5項目の取り組みを行うとした大会宣言を採択した。